

不妊治療中女性に対して鍼初回患者と気血水スコアの使用と検討

-当クリニックの統合医療システムと受胎鍼での東洋医学的評価法 第二報-

粉川知也子 室谷有紀 田中久美子 友崎薫 道端肇 森本義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

## 目的

不妊治療中の女性患者（以下患者）に対して鍼施術を行ったとする報告は多く、漢方治療を併用した報告も見受けられる。患者に対して東洋医学的評価を数値化することで、他職種と東洋医学的な患者情報の共有化の実現が可能と考える。そこで本研究では、患者を東洋医学的に評価することを検討した。

## 方法

期間： 2023 年 4 月 19 日から 2024 年 12 月 23 日まで

対象： 受胎鍼受療患者 266 名

方法： 初回鍼灸施術実施時に、一般漢方診療でよく用いられる気血水スコアを用い、気虚、気鬱、気逆、血虚、瘀血、水滞の 6 項目の判定を行い、集計・分析した。

## 気血水スコアの検討

気虚、気鬱、気逆、血虚は、それぞれ 30 点、瘀血 21 点、水滞 13 点より大きいものをハイスコアとした。このツールの判定は点数の多いものを重症とみなすことから、ハイスコア項目の数から患者の東洋医学的な評価を行った。1 項目もハイスコアに達しなかったハイスコアなしの人数は 65 名(24.43%)であった。項目ごとのハイスコア人数は、気虚 70 名(26.32%)、気鬱 64 名(24.06%)、気逆 54 名(20.30%)、血虚 95 名(35.71%)、お血 34 名(12.78%)、水滞 164 名(61.65%)であった(ハイスコアの項目は重複する場合もある)。ハイスコア数は 1 個 71 名(26.69%)、2 個 52 名(19.55%)、3 個 33 名(21.41%)、4 個 20 名(7.52%)、5 個 18 名(6.77%)、6 個 6 名(2.26%)であった。

## 考察

東洋医学での不妊の評価は瘀血が多いと言われているが、今回の調査では水滞のハイスコア者が多かった。水滞に対してのアプローチは漢方・運動療法や食事指導、レーザーやアロマ・リフレなど多岐にわたって行うことができる。不妊原因は様々であり、患者一人一人を評価することが必要であると考えられる。

## 結語

不妊治療中の患者に対して、漢方処方や薬膳的な食事指導、鍼灸は取り入れられているが、東洋医学的考え方を他職種に普及浸透する事は容易ではない。まず特徴的な症状を数値化する事で、部分的だが東洋医学的側面の評価項目のひとつになればと考えている。